

新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード議事概要

開催日時：令和2年2月7日（金）14:00～15:40

場所：共用第7会議室

出席者：尾身構成員、川名構成員、中山構成員、押谷構成員、武藤構成員、脇田構成員、舘田構成員、吉田構成員、岡部構成員（押谷構成員、武藤構成員はスカイプによる出席）

事務局：佐々木厚生科学課長、日下結核感染症課長ほか

（加藤厚生労働大臣は、途中出席し、あいさつ後退席）

- クルーズ船乗客への対応を中心に議論したい。今後、国内同様、14日間の観察をすべきではないか。国内同様の対策をとるべき。症状がある人への治療が原則。
- 全員下船させてもよい。
- なるべく早く下船させられるよう、必要な情報を集めるべき。
- クルーズ船は武漢よりは日本国内に近いが、それでも非常に濃縮された環境であることに留意すべき。
- 構成員の意見を踏まえると、クルーズ船の対応については、チャーター便とは異なり、全例を検査することまで必要はない。有症状者のみでよいだろう。その他の者については14日間の経過観察。これについては合意を得たと思う。（その他異議なし）

事務局 検査の今後の対象者についてはどうか。

- 検査の対象は、感染の広がりが早期であれば、検査の対象を幅広く、無症候病原体保有者を含めてよいかもしれない。まん延期に至れば、肺炎の者、それも医学的に入院加療が必要な者に限ることになる。
- 今は、対象とする地域を湖北省としているが、中国全土に広げていくことについてどう考えるか。

○ 急に上げると影響が大きいですが、世界的な感染の拡大の状況を踏まえ、段階的に見直していくことは必要と考える。

○ 感染者を一人も出さないというのは不可能だということを国民に対して説明していくべきだ。

事務局 症状のない人に対して検査を行うことについて意見を聞きたい。

○ 意味がないのではないか。

事務局 無症状病原体保有者は入院する必要があるか。

○ 自宅待機でよいと考える。

事務局 感染性、病原性についてどう評価しているか。

○ 感染力は、インフルエンザと同等と考えている。病原性だが、武漢の致死率が4.0%であり、世界では0.8%である。さらに、無症候病原体保有者の多くは分母に含まれていないので、実際の致死率はより低いのではないか。

事務局 無症候病原体保有者の感染性についてはどうか。

○ エビデンスはないが、感染性がある可能性はある。

○ 感染性があるものとして扱うべき。エビデンスを待っていては遅い。そのことを国民に説明し、理解を得るべき。

事務局 ウイルスの遺伝子変異についてはどうか。

○ 感染研では注意深く見ているが、現時点でない。

以上。

*これらの意見が各構成員から出されたが、アドバイザリーボードとしての統一的な見解を示したものではない。